

果樹農家のみなさまへ、時季ごとの耳より情報をお届けします

土壌改良・排水対策で湿潤害を防ぎましょう

近年、降雨により**ブドウの玉割れ**や**モモの核割れ**などの土壌湿潤害が発生しています。

スピードスプレーヤーや乗用草刈機の使用の増加や、草生栽培により耕起や深耕の機会が減り、**土壌が硬く締まり排水性が悪化する**のが**要因**です。



(写真1)玉割れしたぶどう(ピオーネ)



(写真2)核割れしたももの断面(夢みずき)

おすすめの湿潤害対策

- 対策① 定期的な灌水をしよう！
- 対策② 土壌を柔らかくしよう！
- 対策③ 施肥を変えてみよう！
- 対策④ 草生栽培に変えてみよう！
- 対策⑤ 排水方法を見直そう！

梅雨の長雨に備えて、
対策しましょう！



くわしくは裏面をご覧ください



対策① 定期的な灌水をしよう！

土壌水分が急激に変化しないよう定期的に灌水しましょう。

対策② 土壌を柔らかくしよう！

土が硬く締まった畑では、秋に深耕を行いましょ。

樹の周りを若木のうちは**条溝式**に、成木は**タコツボ式**(写真3)に、それぞれ5年程度で樹を一周するように少しずつ行います。いずれも、**深さ30~40cm程度**掘り、堆肥や土壌改良剤を混ぜて埋め戻します。

また、2月~3月に**グロースガン**(写真4)による圧縮空気の土壌への処理も効果的です。



(写真3) タコツボ式深耕



(写真4) グロースガン

対策③ 施肥を変えてみよう！

有機質資材の施用は、土壌の物理性・化学性を改善させます。特に硬く締まった土壌では**バーク堆肥**を施用して土壌中の孔隙量を増やしましょう。

対策④ 草生栽培に変えてみよう！

牧草などの**草生栽培**は、土壌流亡の防止と有機物の補給による物理性の改善など効果的ですが、より効果を高めるため数年おきに**中耕・耕起**を行いましょ。

対策⑤ 排水方法を見直そう！

畑の排水性改善のため**明渠**や**暗渠排水路**(写真5)の設置も有効です。傾斜に沿って溝を掘り余分な水分を圃場外に出しましょ。



(写真5) 暗渠排水路敷設の様子

写真提供(写真3~5):山梨県果樹試験場

■中央支所	山梨市小原東1333-1	TEL 0553-22-5056
■南アルプス支所	南アルプス市小笠原1339-1	TEL 055-282-0443
■北部支所	韮崎市藤井町駒井3206-1	TEL 0551-23-1111
■富士支所	都留市つる5丁目2-21	TEL 0554-45-6611